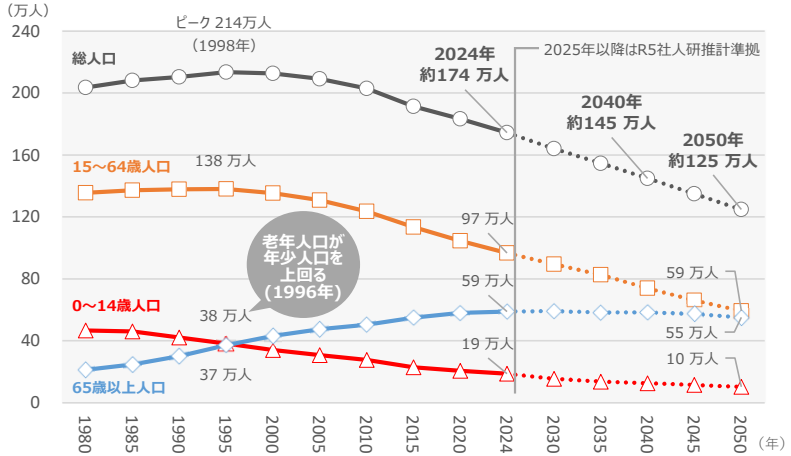
福島県の人口減少の現状

参考資料

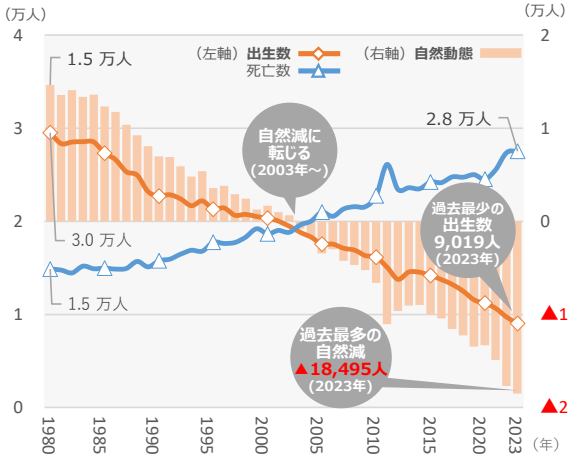
- **福島県の人口は、2024年（令和6年）10月現在約174万人**で、1998年の214万人をピークに減少が続いている。人口の年齢構成をみると、年少人口（0～14歳人口）の減少と老年人口（65歳以上人口）の増加が続いており、少子化・高齢化が進行している。また、国立社会保障・人口問題研究所による推計によれば、今後も人口減少が見込まれる。
- 自然動態（出生・死亡に伴う人口の動き）と社会動態（転入・転出に伴う人口の動き）のいずれも減少傾向が続いており、**自然動態は2023年に過去最少の出生数9,019人 及び 過去最多の18,495人の自然減、社会動態は2023年は6,579人の社会減**となっている。
- また、2023年の男女・年代別の転入・転出の内訳をみると、**進学期・就職期にあたる20～24歳の若年層の転出が顕著であり、更に女性は男性の1.4倍の転出**となっている。2020年の県内若年層の男女比は、女性１人に対し男性の人数は1.35人となっており男女比の不均衡が生じている。**男女比の不均衡は出会いの減少、ひいては婚姻数減少（未婚率増加）、出生数減少にもつながり、社会動態と自然動態が相互に影響しながら人口減少が加速していることが示唆**される。
- 人口減少社会に適応していくためにも、若年層・女性をはじめ、あらゆる世代の方が活躍しやすい生活環境整備や、県内企業とともに職場環境の整備を推進するなど、**自然減対策と社会減対策を両輪で人口減少を抑制する施策を推進する必要がある**。

❶人口推移（2025年以降はR5社人研推計による推計）



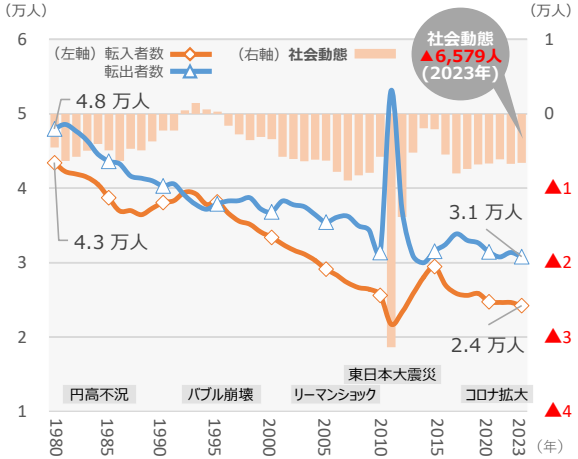
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」

❷自然動態の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

❸社会動態の推移



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

若年層の域外流出

女性の転入超過数ワースト２位

- 直近5年間(2018～2023年)で18,666人の女性が県外に転出
- 2023年は、男性の1.4倍の女性が転出

男女比の不均衡

男女比の不均衡ワースト１位

- 20～34歳の未婚女性1人に対して未婚男性が1.35人 (2020年)

未婚率の増加・婚姻数の減少

婚姻数の減少率ワースト３位

- 5年前と比較して、婚姻数が27.1%減少 (2018年→2023年)

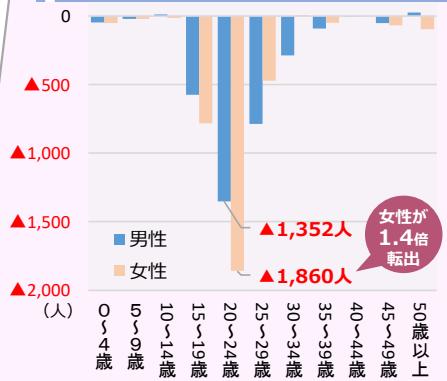
出生数の減少

出生数の減少率ワースト３位

- 5年前と比較して、出生数が27.8%減少 (2018→2023年)

少子化・人口減少

❹男女・年代別転入超過数（2023年）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

❺20～34歳未婚者の男女比（2020年）

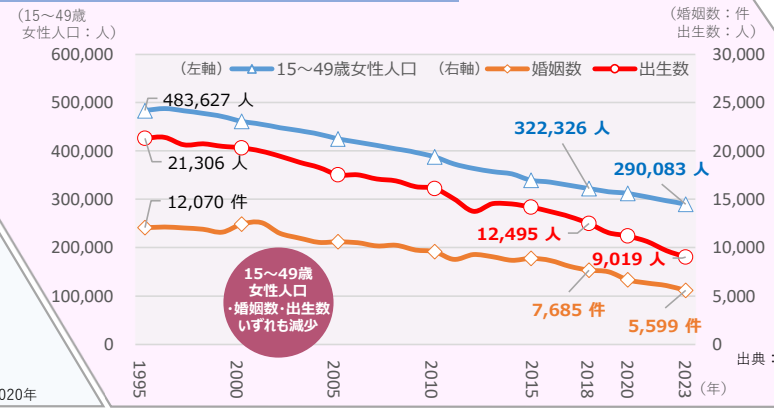
※未婚女性の人口を1とした場合の未婚男性の比率

順位	都道府県	
1位	福島県	1.35
2位	茨城県	1.34
3位	栃木県	1.32
4位	富山県	1.32
5位	群馬県	1.30
6位	静岡県	1.29
7位	福井県	1.28
8位	山形県	1.27
9位	山梨県	1.27
10位	長野県	1.27
-	全国	1.14
43位	東京都	1.03

若年の未婚男女比不均衡

出典：総務省「国勢調査」2020年

❻15～49歳女性人口・婚姻数・出生数の推移



出典：厚生労働省「人口動態調査」
福島県統計課「福島県現住人口調査年報」

（参考）県民・企業アンケートより

2023年の県実施アンケートから、

- **若年層の県外志向**
  - ・夢ややりたい仕事、成長機会、より良い労働環境や柔軟な働き方を求め首都圏等へ進学・就職を志向する傾向
- **県内企業の課題感**
  - ・性別による役割分担意識や、出産・育児と仕事が両立できる職場環境整備の推進に課題あり
- **県民の希望こども数**
  - ・希望する子どもの人数が低下

等の結果が得られた。